

# 野辺西後輩にエール

今年のプロ野球ドラフト会議で中日から育成1位指名を受けた八戸学院大の松山晋也投手(22)＝七戸町出身＝の「凱旋講演会」が20日、母校の野辺地西高校（野辺地町）で開かれた。後輩に当たる全校生徒228人に「目標や夢を持ち、それを言葉で表してほしい」とエールを送るとともに、プロでの活躍を誓った。（兼平昌寛）

## 中日育成1位 松山投手(八学大)



野球部員と懇談しながら、交流する松山投手⑤

## 「目標言葉で表して」

松山投手は184センチから投げ下ろす最速154キロの直球とスプリットが武器の本格派右腕。同校出身のプロ野球選手は3人目。

講演会では「親にわがままを言って、あと4年野球をやらせてほしいと大学に進学した。絶対にプロ野球選手になると思い練習して

きた」と振り返り「諦めなかったことで夢を実現できた。他の人の支えがあり、人に恵まれた。この気持ちを忘れないでやっていきたい」と力強く語った。質疑応答で、プロ入りのために頑張った点を尋ねら

れ、「素振りや投球などを人生を変えるくらいにやればなれる」と述べた。講演に先立ち、同校の野球部時代に監督を務めていた寺嶋恭祐部長がエピソードを披露。入学時は不器用だったが、人間性に優れ努力家だった一面や、自分を見つめ直すために2年生からトイレ掃除を続けていたことを明らかにした。

松山投手は講演会終了後、大学時代も指導を交えて一緒に練習してきた野辺地西野球部員39人と交流。部員から体を大きくする方法を問われ「しっかり食べてほしい」と答えた。野球部の滝沢颯土主将(2年)は「日々努力をすれば結果が出ることを学んだ。今後は夢を持って練習していきたい」と目を輝かせながら語った。